

## 令和5（2023）年度 ティーチング・ポートフォリオ 目次

ページ	学科名	職名	氏名	専攻分野
1 ～ 4				※目次と様式
5 ～ 7		学長	松本 秀章	政治学
8 ～ 11	国文学科	教授 / 学科長	神谷 昌史	近代日本政治思想史、教育思想
12 ～ 14	国文学科	教授	平井 むつみ	図書館情報学、学校図書館学
15 ～ 18	国文学科	准教授 / 図書館長	井上 勝	図書館学
19 ～ 22	国文学科	准教授	池田 大輔	日本古典文学（中古文学）
23 ～ 25	国文学科	講師	有山 裕美子	文化情報学、図書館情報学
26 ～ 29	国文学科	講師	吉田 大輔	比較文学、日本近代文学
30 ～ 33	子ども学科	教授 / 学科長	伊藤 孝子	社会科教育、幼児教育
34 ～ 37	子ども学科	教授	大橋 英子	幼児教育
38 ～ 41	子ども学科	教授	平井 敏孝	生活科
42 ～ 44	子ども学科	教授	松本 文夫	スポーツ科学、コーチング科学
45 ～ 47	子ども学科	准教授	西松 秀樹	教育心理学
48 ～ 50	子ども学科	准教授	野瀬 薫	教育実践史、教育方法学
51 ～ 53	子ども学科	准教授	松宮 孝明	学校教育学、算数科教育学
54 ～ 56	子ども学科	准教授	三岳 貴彦	社会福祉
57 ～ 60	子ども学科	講師	利光 奈穂美	幼児教育
61 ～ 64	子ども学科	講師	藤本 明美	子育て支援
65 ～ 67	子ども学科	講師	山田 明日美	音楽（声楽）

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 月 日 / 年度末 月 日
氏名	
学科	
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年

#### ②担任制度

担任（1 年生）		担任（2 年生）	
----------	--	----------	--

#### ③委員会活動

運営協議会	SD 委員会	
研究倫理委員会	地域連携委員会	
危機管理委員会	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	広報委員会	
認証評価準備委員会	高大接続・連携委員会	
図書委員会	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	教員採用選考委員会	
教務委員会	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会	授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】  【子ども学科】
個人の教育理念・目標	

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	
授業以外 (学生支援等)	

**4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）**

授業	
授業以外 (学生支援等)	

**5. 目標（今後どうするか）**

授業	
授業以外 (学生支援等)	

**6. 記載内容に関する根拠資料**

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5 (2023) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松本秀章
学科	学長
学科以外の兼務職	-

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務 (何を行っているのか)

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
自然と環境	国文・子ども	1年
自然と環境	国文・子ども	2年

#### ②担任制度

担任 (1年生)	-	担任 (2年生)	-
----------	---	----------	---

#### ③委員会活動

委員会名	委員長	委員会	委員長
運営協議会	委員長	SD委員会	
研究倫理委員会	委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員長	入学者選抜委員会	委員長
自己点検・評価委員会	委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員長
不正調査委員会		衛生委員会	委員

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	-
個人の教育理念・目標	<p>本学の使命 (教育者の養成 (理念)、人間形成 (建学の精神)、地域に貢献できる人材養成 (学則) 等) を達成することを念頭に教育研究活動に精励することを目標としている。本学は広義で教育者を養成する高等教育機関であり、我々は教育者を養成する教育者である。学生に教えるということは、自らが試されていることであると捉え、教育内容の向上及び教育者としての資質を日々研鑽するよう努めている。</p> <p>また、本学の使命に加えて、教育による専門職業人及び地域コミュニティを支える職業人・社会人の養成という地方の私立短期大学としての使命を鑑み、教員として学生が地域での実体験を通して学修成果を獲得できるように努めると共に、学長として本学が永続的に教育研究活動を行い、地域の人材輩出を担う使命を達成できるよう、大学運営や地域連携の活動を重視している。</p>

### 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	学科が当該科目に指定する目標（DP）を達成させることはもちろんであるが、教育者・社会人としての資質を向上させるような知識・技能を積極的に取り入れるように努めている。また、本学が目指す人材像を鑑み、人間的な関わりを大切にしている。学生にとって学長という肩書が障壁とならぬよう、柔らかい話し方、節度をもったカジュアルな服装、笑顔を意識した表情等、一教員として双方向の授業が実現できるよう工夫に努めている。
授業以外 （学生支援等）	サークル顧問、学生が主役になれる PF 事業の展開、積極的な食堂利用等、学生との関わりを増やし多くを語り合うことで本学が目指す人材像となってもらえるよう、意図的な関わりと働きかけに努めている。

### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学修成果の達成実感度が 100%であったことから、「教育者・社会人の養成」「体験を通じた学びの実践」等の目標に対し成果があったと評価する。また、「自然と環境」において、授業履修後にキャンパスインストラクター資格を 6 名が取得見込であることから、教育者として活躍したいという学生の意識が伺える。
授業以外 （学生支援等）	学生と関わり、共に活動することを積み重ねることで、当初は消極的だった学生も主体的に学習や課外活動に取り組むようになったと感じている。ボランティア、PF、サークル等の活動に多くの参加があった。目標である教育者・社会人の養成に成果があったと評価する。

### 5. 目標（今後どうするか）

授業	更に体験を通して学べる授業を行うことで、地域で活躍できる教育者・社会人のみならず地域に愛着を持つ学生を育てていきたい。そのためには、「楽しむ」という要素をいかに取り入れていけるかということに挑戦したい。
授業以外 （学生支援等）	引き続き学生と関わるために、意図的な活動を計画し、人に任せるのではなく自らが共に参加する姿勢を続ける。 多くの学修成果を獲得できる、学生の「楽しい」を創造したい。

### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	神谷昌史
国文学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	アドミッション・オフィサー、改革戦略室

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
日本史概論	国文	1
キャリアデザイン	国文	1
インターンシップ	国文	1
ジェンダーと文学	国文	2
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
インターンシップ	国文	2
日本国憲法	子ども	2
シティズンシップ論	国文・子ども	2

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会	副委員長	SD委員会	
研究倫理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	副委員長
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	副委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員

教務委員会	委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	副委員長
学生調査委員会	副委員長	教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会	委員長	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会	副委員長	衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員	担当	WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究 (C)
期間	2021～2024 年度
助成金額 (期間中合計)	4,160,000 円
研究課題	日中戦争期華北の未公開資料の調査・公開と総合的研究
備考 (分担者等)	研究分担者

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】新カリキュラム完成年度にあたって着実に運営を行う。また学生の学習・大学生活・就職などの各方面の支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>学科長としての理念・目標は、まず第一に、今年度完成年次を迎える新カリキュラム・新資格の着実な運営実施に務めることである。第二に、学科教員や事務局職員と協力して学科の魅力を発信し入学者の増加に努めることである。第三に、学生支援への注力である。そして第四に、学科教員を中心に事務局や子ども学科等との連絡・協力を行い、国文学科をまとめることである。最後の点については、今年度は大幅な教員の入れ替わりがあったため、新任教員と既存教員との連絡・協力体制づくりに取り組む。</p> <p>一教員としての理念・目標は、第一に、個人としても学生支援に力を入れることである。学生への対応を通じて、一人一人の学生がしっかりと学生生活を送り、学習成果を獲得して卒業できるようにサポートしたい。第二は、今年度も新規担当科目が多くあることも関係するが、教授内容や方法を研究し、よりよい授業を行うことである。</p>

### 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>①教授内容の研究</p> <p>今年度は特に新規担当科目（新規開講科目）の研究に注力した。「ゼミⅠ・Ⅱ」はマンガを取り扱う授業のため、マンガ研究の書籍・文献を集中的に読み、マンガ研究の中から本学学生に適切と思われるものを選んで紹介・説明するなどした。「シティズンシップ論」は以前担当していた「くらしと政治」に近い科目である。「くらしと政治」で扱った事柄をシティズンシップという観点から取捨選択し、さらに必要と思われる内容を、最新の研究を検討して取り入れた。</p> <p>②教授方法の研究</p> <p>「ゼミⅠ・Ⅱ」では文献を読んだり、みずからのテーマを調べたりするだけでなく、自分自身とマンガの関わりを振り返って考察する「私とマンガ」、お薦めしたいマンガを選んでのPOPの作成など、主体的な関わりと作業ができるようにした。「シティズンシップ論」は型作文と言われる作文技法を取り入れ、単に講義内容を聴いて理解するのではなく、自分なりの意見や考えに落とし込めるように工夫した。また型作文をもとにディスカッションを行うことで、多様な意見に触れられるようにした。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①新カリキュラムの着実な運営</p> <p>学務課と緊密に連絡を取ることで、新カリキュラムの運営を問題なく行えるようにした。新資格である認定絵本土については、講座責任者の教員および学務課と連携を図って着実に進められるようにした。</p> <p>②学生支援</p> <p>学務課教務係・学生支援担当職員、学科教員などと連絡や相談を日常的に行うことにより、細かな支援ができるように図った。</p>

### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>①教授内容の研究</p> <p>新規担当科目である「ゼミⅠ・Ⅱ」は、参考文献を教員研究費で多く購入でき、それらを用いながら授業を行うことにより、マンガを研究する際に多様な視角があることを学生に理解してもらうことができた。</p> <p>②教授方法の研究</p> <p>「ゼミⅠ・Ⅱ」は、主内容であるディスカッションが低調であったのに対し、「私とマンガ」やPOPづくりは学生が熱心に取り組み、一定の成果を上げることができた。「シティズンシップ論」での型作文は、型が決まっているため多くの学生が一定レベルの作文を書くことができ、またそれにもとづいたディスカッションは当初の予想よりは盛況に行うことができた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①新カリキュラムの着実な運営</p> <p>学務課や認定絵本土講座責任者教員とは緊密な連携を取ることができ、また今年度は自身が教務委員会委員長であったことも強く関係して、新カリキュラム・新資格課程の運営を問題なく進めることができた。</p> <p>②学生支援</p> <p>学務課教務係・学生支援担当職員との日常的連携により、学生支援については可能な限り丁寧に行うことができた。ただし就職支援については十分とはいえず、課題が残った。また担任教員によって学生に対する支援の度合いや精度に差が大きく、そのギャップを埋めるこ</p>

	<p>とも次年度以降の課題である。</p> <p>③学科教員との連絡・協力体制づくり</p> <p>こちらについては鋭意努力したが、昨年やそれ以前と比べると不十分に終わった。</p>
--	---

### 5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>今年度新規担当科目であった「ゼミⅠ・Ⅱ」「シティズンシップ論」は今年の成果や反省を踏まえ、改善を図る。特に「ゼミⅠ・Ⅱ」については、①主内容である報告とディスカッションがしっかりと行えるようにすること、②大学祭等での展示について「ゼミⅠ」の開始時点から学生とともに目標立てて進めていくこと、を行う。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>次年度の学科運営においては、①一層の協力体制をつくりあげる。②そのために学科教員との連絡を今年より数多く、緊密に行う。③スケジュール管理を堅実にいき、リマインドもこまめに行う。</p> <p>今年度も低調だった学生募集について、多角的に検討し、入試広報課や広報委員会との連携を密にする。</p>

### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	平井むつみ
国文学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
情報資源組織演習Ⅱ	国文	2
情報サービス演習Ⅰ	国文	2
情報サービス演習Ⅱ	国文	2
学校図書館メディアの構成	子ども	2
学習指導と学校図書館	子ども	2
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
絵本の世界Ⅰ	国文	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	委員
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】新カリキュラム完成年度にあたって着実に運営を行う。また学生の学習・大学生活・就職などの各方面の支援に注力する。
個人の教育理念・目標	県内唯一の司書養成機関として、専門職としての知識、技能、さらに意識をきちんと身につけた司書の養成を目指す。それと同時に、司書課程での学びが、国文学科がその育成を目指している社会人としての力の育成において、国文学科の授業や認定絵本土の授業とともに機能していくことを目標とする。 司書教諭課程においては、教諭として、また学校図書館の専門職として、学校図書館を子どもたちの学びに活かせるようになることを目標とする。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	1年生の春学期から2年生の秋学期までの間に、3期にわたって概論と演習が連続している授業を二つ(「情報資源組織」「情報サービス」)担当してきた。その中で、国文学科の学びにも通じることとして、2年間を通じて「本」を紹介する取り組みを実施してきた。「文による紹介」「絵と文による紹介(POP作成)」「口頭での紹介(ビブリオバトル)」「パスファインダーの作成」等である。
----	---

	<p>また、このうち「情報資源組織」は司書としての極めて専門的な知識と技能を習得する科目であり、この科目によっても専門職としての意識を高めることを目指した。一方の「情報サービス」については、最も高度な専門的業務のための知識・技能を習得するものではあるが、情報を扱う知識・技術の習得でもあり、国文学科が目指す社会人としての力の育成にも資するものであると考えている。</p> <p>司書教諭課程については、講義科目ではあるが、できる限り演習を取り入れて現場で使える力の養成を目指した。例えば今年度担当した科目では、「分類の演習」、また実際の「調べ学習をしてみる」などである。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>昨年度認定絵本土の授業を受講し、今年度の春に資格を取得した学生対象に、その学びの継続と上位の資格の取得にも役立たせるために、7月から1月にかけて7回、地域のまちづくりセンターの子育て広場で主に0～2歳くらいまでの子どもに絵本の読み聞かせをさせていただいた。</p> <p>その他、担任の学生を中心に、欠席が多い、また何か問題を抱えているような学生には、できる限り声掛けをするよう心掛けた。</p>

#### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>司書課程の学生が受講する最終の科目「情報サービス演習Ⅱ」では、今まで学んできた様々な知識・技能を用いての演習を重ねていく。その様子を見てみると、全体的には、やはり、司書課程の学習をしてきた学生であると感じられることが多かった。特に様々な図書館のホームページの評価をしたときや、長浜図書館での見学の報告書では、そのことが強く伝わってきた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>まちづくりセンターでの読み聞かせでは、実際に子どもたちを相手にすると、授業での読み聞かせの練習の時と異なることを実感できたことは、学生たちの学びを深めたと思われる。また、学生たちの学びを深めただけでなく、センターのスタッフの方々にも喜んでいただけた。</p>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図
- ⑥文教 SMILE ブログ 「認定絵本土 認定証」の授与式を行いました
- ⑦文教 SMILE ブログ ビブリオバトルをしました (8/4)
- ⑧文教 SMILE ブログ 認定絵本土として、読み聞かせをさせていただきました (8/29)
- ⑨文教 SMILE ブログ 長浜市立長浜図書館を見学させていただきました (1/18)

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	井上 勝
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	図書館長、改革戦略室

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
インターンシップ	国文	1
図書館情報資源論	国文	1
情報サービス論	国文	1
情報資源組織論	国文	1
情報資源組織演習Ⅰ	国文	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

委員会名	委員	担当	委員
運営協議会	委員	SD委員会	委員
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	委員長
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	委員
図書委員会	委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	委員長
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	担当
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】新カリキュラム完成年度にあたって着実に運営を行う。また学生の学習・大学生活・就職などの各方面の支援に注力する。
個人の教育理念・目標	基本的な姿勢として、本学の教育理念、建学の精神に基づき、個々の学生が社会人として、調和のとれた人間形成を行っていくための支援を確実に行っていく。 滋賀県内で唯一の司書養成課程を持つ本学への社会的要請に応えるべく、県内及び周辺地域の図書館と情報を密に、連携を進めるとともに、現場で求められる司書となるべく、実務的な能力を身につけるとともに、困難に直面したとき、適切な判断ができるよう、よって立つべき基本的な考え方、理論も伝えていく。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	司書養成のための司書資格に関する授業において、基本的な理論を伝えていくに際して、30年余の実務経験を踏まえ、現場ではそれらをどう展開し、活かしていくのかを説明し、自身が実際に図書館現場に立った時、どのような司書でありたいか、どのような図書館としていきたいかということを年間に2～3回考えて文章化させた。また、公立図書館を見学することや、展覧会やコンサートなどの文化事業に参加することを勧め、基本データをまとめることや
----	--

	<p>その感想を文章化することを行った。</p> <p>私自身が滋賀県・福井県・岐阜県などの図書館をできるだけ実際に訪れ、施設や実際に行われている図書館サービスを確認し、インターンシップや図書館見学の受け入れが可能か等について調査を行い、それらの情報を授業等において学生に還元した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学校生活になじめない学生、慣れない1人暮らしや、授業を受けることに困難を感じている学生から具体的に困っている事を聞き取り、問題点をときほぐしながら、学生に寄り添い、その困難を一つ一つ解決すべく話し合った。</p> <p>就職活動について、図書館司書の採用を中心とした情報を提供するとともに、地方公共団体の受験、図書館司書の採用試験等に際して、書類の書き方、面接時の答え方等を模擬的な形で行う等実践的な対応を行い、受験時の不安感をやわらげるようにアドバイスをを行った。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>学生の授業理解、図書館サービスの実際像の構築において、理論のことばだけでは、入っていきにくい知識を具体的なことがらとして整理し、実感として受け入れることにより、徐々に、具体的なイメージを伴う図書館司書像を描けるようになっていった。</p> <p>学生自身の中での司書像を、より上手に文章化できるようになっていった。</p> <p>結果的には、滋賀県内の図書館3館で5人、福井県内の図書館1館で1人ではあるが、図書館でのインターンシップを実施することができ、地域の図書館をより身近に感じ、図書館で働くイメージをより具体的に持つことができるようになっていった。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>すべての授業において、すべての学生が溶け込むことは残念ながらできなかったが、出席不足による単位未取得という事態は避けることができた。また、学校生活に馴染めないことによる不登校、退学ということはなかった。</p> <p>就職活動において、一次試験を通過できた自治体、二次試験まで通過できた自治体もあり、最終的に採用まで至らなかったが、自身の学びに自信を持てせるところまでは行けた学生も出てきた。</p>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>今年度は一年生の授業を担当していたが、来年度は持ち上がりで二年生の授業も持ち上がることになる。一年生で積み上げてきた図書館および、司書についての知識をより深め、また、実践的なものとするべく、演習的な要素を増やし、ディスカッションや発表というアクティブな学びの要素を加え、また、今年度同様、現場での対応力をつけるための図書館現場の情報を授業で活かせるように、現物の提示や映像によるイメージ化等、より工夫を凝らしていく。</p> <p>また、新一年生についても、今年の授業を踏まえ、引き続き、現場のリアルな情報に基づいた知識の伝達につとめ、自身で考えること、話し合い等により考えを深めること、そのうえで図書館現場での実際のサービスとの比較をすることというより、プラグマティックな疑似体験的な要素を加味していきたい。</p> <p>私自身が、学生の出身地及び、その周辺の図書館を、今年度に引き続き訪問し、学生と実際の図書館の施設、サービスについて語り合えるようにしていきたい。また、インターンやボランティア等の関係を築ける図書館を増やし、その情報を学生に提供し、実績を積み重ねていきたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>今年同様、学生に寄り添い、学生生活に支障が出ないようにサポートしていくと共に、私自身も支援する力のスキルアップのために研修受講等の自己研鑽に努めていきたい。</p>

	今の一年生は、来年度卒業念に当たるので、社会にでていくためのサポート、就職支援にとめたい。公務員採用、図書館司書の採用に関する情報収集につとめ、今年同様、書類作成のアドバイス、模擬面接を行う等今までの私自身のキャリアを活かした就職サポートに努めていきたい。
--	--

#### **6. 記載内容に関する根拠資料**

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	池田大輔
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	湖国カルチャーセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
古典文学講読 I	国文	1
古典文学講読 II	国文	1
文章表現	国文	1
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラム I	国文	1
基礎力プログラム III	国文	1
基礎力プログラム IV	国文	2
ゼミ I	国文	2
ゼミ II	国文	2
ボランティア	国文	2

#### ②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

#### ③委員会活動

委員会名	委員	担当	
運営協議会	委員	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員長
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	委員長

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	担当

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】新カリキュラム完成年度にあたって着実に運営を行う。また学生の学習・大学生活・就職などの各方面の支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>本学科のアドミッション・ポリシーに基づき入学してきた学生に対し、カリキュラム・ポリシーに従って、ディプロマ・ポリシーの達成実現へ向けた教育活動を行っている。特に日本古典文学の授業を中心に担当しているので、学生には時代を超えて普遍的な価値を持つ言語表現について自覚させ、日本人のアイデンティティや人間の根本的な課題を探求する方法や機会を提示し、自己価値・判断力・言語化能力の涵養を目指す。その際に、発問や対話を重要視し、己の知識をもとに主体的思考を形成できるような授業展開を心がけている。</p> <p>また、学生には日常的に自己の考え文章化することを課し、教員が添削、見直しすることで、誰もが納得できる言語化能力を習得できるよう指導している。国文学科で学んだ社会人として、恥ずかしくない素養と言語力を発揮できるよう学生を導くことを心掛けている。</p> <p>*本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、本学ホームページを参照してください。</p>

### 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>学生の「自己価値・判断力・言語化能力の涵養」するために、教員が一方向的に講義するのではなく対話、考えを共有することで、受講者に知的刺激、知的闘争を促した。</p> <p>そのためのプラットフォームとして、Google Classroom に毎授業「講義資料」（PDF）「リアクションペーパー」を基本とし、必要に応じて「講義動画」（非公開 YouTube）を活用した授業設定を行った。</p> <p>具体的な方法として、各授業には「授業テーマ」（たとえば、古代では色をどのように認識していたのかなど）を設定し、授業の最後には教員の見解を示し、それを踏まえて「リアクションペーパー」を提出してもらう（Google Classroom を活用し提出は次回授業の前日まで）。「リアクションペーパー」の記述内容は、自由形式であるが、講義テーマを記載する項目を設けることで、振り返りをしやすいように作成した。提出してもらった「リアクションペーパー」には点数とコメントを付して、授業開始前までに返却し、次の授業開始時に、他者の意見や見解の共有をした。当然、提出してもらった文章の添削も含めて、点数化、返却を行った。点数化は、返却された際に受講者自身が、なぜ減点されているのかを意識させる効果を狙っている。</p> <p>「講義動画」を使用する場合は、Microsoft Teams で授業を録画したものを、授業当日中に YouTube にアップロードし、受講者のみが視聴できる非公開設定にすることで、受講者が振り返りをしやすいようにした。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>授業外での学生との関わりは少なかった。</p> <p>今年度新設されたスチューデントアワーを活用し、昨年度も実施した「国文学科1・2年の交流」として、平安時代に食されていた索餅（七夕のお菓子）を「作って・食べる」ことを、昼食時間を利用して調理実習室で行った。また、恒常的にはスチューデントアワーには体育館で卓球やバドミントンの運動で学生と汗を流す交流を図った。</p>

### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>学期末に実施する授業アンケートでは、Google Classroom を活用した授業設計に対し、概ね好意的な意見ばかりで、反対意見はなかったので、一定の評価に値すると思われる。</p> <p>また、受講者の知的刺激、知的闘争を促すことについては、「リアクションペーパー」をもとに実践したが、授業開始時に紹介した他者の意見を知ることで、自分の考えを深め、更にその先の考えを引き出していることが多々見られたので、成功していると言える。</p> <p>「リアクションペーパー」の点数化とコメントを付して返却することについては、意識する受講生と意識しない受講生に分かれるため、前者は問題ないが、後者の場合、毎回「同じコメント」を付しても「確認していない」ので、毎回同じ減点対象となっていることが多い（この場合、授業内で指導することになっている）。定期的に指導ができる契機となるので、課題がある受講者の可視化には繋がる。</p> <p>「講義動画」（非公開 YouTube）については、あくまで対面授業の補足として活用しているので、このままでよいと思われる。また、欠席した受講者の為にも記録として活用していく。但し、定期試験前になると視聴回数が伸びる傾向にあるので、復習に活用していると考えられる。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学生から大きな相談を受けることはなかったが、日常的に話かけられたり、対話したりする機会づくりとして問題ないと思われる。</p>

## 5. 目標（今後どうするか）

授業	対面授業を補うプラットフォームとしての Google Classroom、Microsoft Teams は、今後も活用し、受講者の知的刺激、知的闘争の材料とすることで、「自己価値・判断力・言語化能力の涵養」に努めていく。
授業以外 (学生支援等)	いつでも話を聞いてもらえる、話をしにいけるという姿勢は今後も示していく。今後も、国文学科らしい「交流の場・機会」を提供していくことを模索する。

## 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	有山 裕美子
国文学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
児童文学	子ども	2
学校経営と学校図書館	子ども	2
情報メディアの活用	子ども	2
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ボランティア	国文	2
図書館サービス概論	国文	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	副委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	副委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	副委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	副委員長
FD委員会	副委員長	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	

教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
助成者	日本学術振興会		
資金名	科学研究費助成事業		
研究種目	基盤研究 (C)		
期間	平成 31 年 4 月～令和 6 年 3 月		
助成金額 (期間中合計)	4, 290 千円		
研究課題	学校図書館を中心とした雑誌利活用教育の実態・可能性に関する実証的研究		
備考 (分担者等)	分担者		
助成者	日本学術振興会		
資金名	科学研究費助成事業		
研究種目	基盤研究 (B)		
期間	令和 5 年 4 月～令和 9 年 3 月		
助成金額 (期間中合計)	14, 430 千円		
研究課題	学校教育とデジタルアーカイブを結ぶ学習内容 LOD を用いた架け橋モデルの設計		
備考 (分担者等)	分担者		

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】新カリキュラム完成年度にあたって着実に運営を行う。また学生の学習・大学生活・就職などの各方面の支援に注力する。
個人の教育理念・目標	本学の教育理念及び建学の精神に基づき、「教育者を育てる教育者」として日々学び、自己研鑽につとめるとともに、学生ひとり一人の課題や学びに寄りそう、きめ細やかな指導をおこないます。また、学生の理解が深まるような授業の工夫、改善につとめ、社会に出た時に役に立つような実践的なカリキュラムの実践を目指します。さらに、調和のとれた人間形成につながる、バランスの取れた体験、教育機会を提供できるように、学内、地域、その他機関と連携しながら、私自身も学生とともに成長できるよう学び続けることを目標とします。

### 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>「教育者を育てる教育者」としての理念に立ち、講義内でも、より実践に即した内容をとりあげるように努めました。また、自分自身の教員や司書としての経験はもちろん、さまざまな具体例を取り上げ、学生が社会に出た時に役に立つような、演習等を取り入れ、主体的に授業に参加できるように促しました。</p> <p>具体的な方法としてはあ、学生一人一人の課題に対する習熟度を測るために、講義毎のリアクションペーパーの作成や、講義途中の中間レポートを課し、随時フィードバックや授業内発表を取り入れ、理解度や講義への主体性を見るようにしました。より協同的な学びへと向かえるように、グループディスカッションや、お互いへのフィードバック等にも重点を置き、他者の意見も尊重しながら学びを深めることができるように授業を組み立てていくようにしました。また、可能な範囲で Google クラウドルームなど、ICT を活用した授業を行い、学生の ICT 活用を促しました。</p>
授業以外 (学生支援等)	スチューデントアワーを使ってバドミントンなどスポーツを行い、学生との親交を深めたり、担任の学生を中心に可能な限り学生との接点を持ったりするように心がけました。

### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>授業毎のリアクションペーパー提出に関しては、学生によってかなりのばらつきがみられました。一つ一つの授業を丁寧に受け、その成果をまとめることの重要性はあまり浸透しなかったように思います。その結果が授業アンケートにも出ているようで、十分理解できたという回答が半分に満たない科目もあります。さらに理解を促す方法が、授業者自身に求められていると感じました。その反面、講義内での発表やレポートなどは、主体的かつ意欲的に行われていて、発表方法はもちろんその創造性も高く評価できるものになっていました。繰り返しこうした体験を行うことは着実に学生の力になっていくことを実感しました。</p> <p>ICT 活用の場面も、それぞれ工夫して使いこなしている様子が見えます。</p>
授業以外 (学生支援等)	個人的なことを相談してくれる学生もいて、話しかけやすい状況にはあったのではないかと思います。

### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	今年度に引き続き、より実践的な講義の中で社会人としての力をつけていけるように促すとともに、演習や発表、グループワーク等も多数取り入れながら主体的・協同的な学びを支援していきたいと思います。また、学生一人一人の理解度、習熟度にも配慮しながら、きめ細やかな指導を目指します。
授業以外 (学生支援等)	来年度以降も、スチューデントアワーのような時間を活用して、より細かな学生支援を行ってきたいと思います。

### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	吉田大輔
国文学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
日本文学史	国文	1
基礎力プログラム I（初年次教育）	国文	1
子どもと文学	国文	2
基礎ゼミ	国文	1
ゼミ I	国文	2
近現代文学講読 II	国文	1
基礎力プログラム II	国文	1
文学と地域	国文	2
ゼミ II	国文	2

#### ②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	副委員長
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	副委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費
研究種目	若手研究
期間	2022年4月から2024年4月(3年間)
助成金額(期間中合計)	270万円(3年間の総計)
研究課題	文学と商工業の結索点としての「実業小説」—『実業少年』と幸田露伴に注目して—
備考(分担者等)	研究代表者

## 2. 理念(どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】新カリキュラム完成年度にあたって着実に運営を行う。また学生の学習・大学生活・就職などの各方面の支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>【「類似」(似ている)を発見する力を鍛える教育】</p> <p>筆者は、人間の思考力を4つの要素に分割して捉えている。4つとは、「抽象」(まとめる)「具体」(たとえば)「類似」(似ている)「差異」(違う)であり、これらの要素を事象に即して展開できる力が思考力なのだと考える。このうち、高校までの学校教育において、ものごとを抽象化する力と緊密な関係であるにも関わらず、もっとも育てられる機会が少ない能力は、「類似」を発見する力である。</p> <p>このような認識に基づき、さまざまなレベルでの「類似」を発見させる力を養い、生物学で言う「相同」(見た目は違うが本質は同じ)と「相似」(見た目は似ているが本質は違う)をさまざまな事象に対して発見できる力を涵養したい。</p>

### 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>今年度の筆者の担当授業のうち、「基礎力プログラムⅠ」(国文1年・春学期)「基礎力プログラムⅡ」(国文1年・秋学期)「基礎ゼミ」(国文1年・秋学期)などの他の教員と連携して行った授業では、国文学科の学生に必要な力を総合的に育成していくよう努めた。「基礎力プログラムⅠ」では大学での主体的な学びに必要な基礎知識を教授したうえで発表を行ってもらい、知識を確実なものにした。「基礎力プログラムⅡ」ではさらにそこにフィールドワークを取り入れ、グループでの学びにつなげていった。「基礎ゼミ」では、個人発表の力を育成し、2年次のゼミへと繋がるようにした。</p> <p>筆者が単独で担当した授業、「日本文学史」(国文1年・春学期)「ゼミⅠ」(国文2年・春学期)「子どもと文学」(国文2年・春学期)「近現代文学購読Ⅱ」(国文1年)「ゼミⅡ」(国文2年・秋学期)「文学と地域」(国文2年・秋学期)では、上述の類似を発見する力を伸ばす展開を心掛けた。「日本文学史」では、日本近代文学の成立をめぐる「近代」と「日本」をめぐる多くの言説に共通のものがあることに気づかせるように留意した。「ゼミⅠ」では、一人の学生に何らかの類似が見られる2つの作品を担当してもらうことで、共通の問題点を発見してもらうようにした。「子どもと文学」では、「イソップ寓話」から類似の問題を抽出し、絵本を作成してもらった。「近現代文学購読Ⅱ」では、漱石作品の類似主題へ言及しつつ「三四郎」を購読した。「ゼミⅡ」では、なにかとの比較の観点を重視しながら文学を論じてもらうよう指導した。「文学と地域」では、織田作之助の作品を集中的に読むことで、彼が描いた関西像の共通性を考えた。</p> <p>類似の発見という観点から特に今年度力を入れたのは、上記のうち「子どもと文学」の授業であり、この授業に関しては、後述の報告論文も執筆した。</p> <p>上記すべての授業でリアクションペーパーを用い、学生の理解や関心、質問などを把握しつつ、授業を展開した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>特にゼミ生や担任学生とは日常的に学習・大学生活・就職などの相談に乗り、文章添削などもした。また、留学生の文章添削なども行った。その他、授業内外で、ゼミ生や担任学生以外の学生からの相談にも多く乗った。</p>

### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>他の教員と連携して行った授業のうち、「基礎力プログラムⅡ」(国文1年・秋学期)ではグループ活動が一部うまく機能しなかった点なども見られたが、「基礎力プログラムⅠ」(国文1年・春学期)「基礎ゼミ」(国文1年・秋学期)などと併せてオムニバス授業全体として見ると、学生たちはおおむねうまく成果をプレゼンできるように成長していたので、授業の目標は果たせたとと言える。</p> <p>筆者が単独で担当した授業、「日本文学史」(国文1年・春学期)「ゼミⅠ」(国文2年・春学期)「子どもと文学」(国文2年・春学期)「近現代文学購読Ⅱ」(国文1年)「ゼミⅡ」(国文2年・秋学期)「文学と地域」(国文2年・秋学期)では、上述の類似を発見する力を育成しようとしたが、授業によってその意図の伝わり具合には差があるように思えた。「日本文学史」や「近現代文学購読Ⅱ」のように授業の中で手を動かしてもらう要素が少ない授業では類似を発見してほしいというこちらの意図がどこまで伝わっているかはやや疑問だった。しかし、「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ゼミⅡ」「文学と地域」などの手を動かす要素が多い科目では、十分にその意図は伝わっているように思えた。</p> <p>今年度、特に「類似の発見」を強調し、また学生も十分にこちらの意図に応じてくれたと</p>
----	---

	<p>言える科目は「子どもと文学」であり、この授業に関しては、滋賀文教短期大学紀要に原稿用紙 40 枚程度の簡単な報告を書き、投稿した。また、この授業で作成した絵本は、学生たちの許可を得たうえで図書館で展示したり、オープンキャンパス・学園祭での展示なども行い、外部化するように努めた。</p> <p>授業のリアクションペーパーやアンケートの反応も悪くなかった。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>ゼミ生や担任学生を中心として、学生の多くが相談しやすい雰囲気が構築できたと考えている。就職に際しての文章添削などの相談を受けたことも多く、具体的な文章への助言などを含めて、学習・就職活動いずれの面でも支援できたと思う。</p>

## 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>前述のように、本年筆者が一部を担当した科目のうち、「基礎力プログラムⅡ」(国文 1 年・秋学期) ではグループでの活動があまりうまく機能していなかった班もあり、今後の指導について改めてほかの担当教員とも協議のうえ、よりよい方法を模索したい。</p> <p>また、筆者が単独で担当する授業では、個人の教育理念・目標としている「類似を発見する力の育成」を目標に実践を継続していきたい。特に、「子どもと文学」で行った、精読よりも多読を重視する活動のなかで類似を発見し、レポート以外の成果として絵本を作る授業には可能性を感じているので、来年度も継続して同じ実践を行ってみたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>基本的には本年度と同じように、ゼミ生や担任学生を中心として、学生の多くが相談しやすい雰囲気を構築したい。</p> <p>本年度は、授業がかなり進んでから学生がなんらかの困難を抱えていることに気づく場面があった。来年度は、今年度以上に、学生を注意深く見ていきたい。</p>

## 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	伊藤 孝子
子ども学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	改革戦略室

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
キャリアデザイン（子）	子ども	1
社会科概論	子ども	1
社会科教育法	子ども	1
家庭科概論	子ども	2
家庭科教育法	子ども	2
保育内容総論	子ども	1
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
幼児と健康	子ども	2
幼児と環境	子ども	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	無	担任（2年生）	無
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

委員会名	役職	所属委員会	備考
運営協議会	副委員長	SD委員会	
研究倫理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員長
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	副委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	副委員長
学生調査委員会	副委員長	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会	副委員長	学長推薦選考委員会	副委員長
不正調査委員会	委員長	衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部長		小学校部会長	
幼稚園実習部長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育や教育に関わる専門的な知識や技能が身に付くよう、授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れるなど、学生の体験的な学びを推進する。また、体験的な学びを言語化する場を工夫する。</li> <li>・コミュニケーション力や協働力を高めるために、グループワークや発表などの機会を重視し、実践力の育成に努める。</li> <li>・学科長として、大学の教育方針、子ども学科の理念・目標等を踏まえ、円滑な運営が行えるよう、学科内の情報の共有や協議の充実を図る。</li> </ul>

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	①アクティブ・ラーニングの推進 担当する授業において、グループディスカッションやロールプレイ等の体験的な学びを取り入れるなど、授業改善に努める。
----	---

	<p>②学生のコミュニケーション力・プレゼンテーション力の向上</p> <p>小グループによる事例検討等、ディスカッションの機会を多く設定する。他者の考えを聞くことで自分の考えを整理したり、新しい発見が生まれたりする経験を大切にする。キャリアデザインの授業では、学生に自分の将来について考えさせ、将来のイメージに近づくために何をすればよいのか、グループワークやプレゼンテーションなどを通して明らかにする。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生支援</p> <p>保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導等を行う。</p> <p>②委員会活動等</p> <p>子ども学科長という立場から、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催する。</p> <p>③研究活動・社会活動等</p> <p>幼児教育や幼小連携・幼小接続に関する研修会・研究会等で講師をすることで、専門分野の最新の状況を知り、それらを学生に伝えるなど、学生支援に役立てる。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

<p>授業</p>	<p>①学生の理解度の向上</p> <p>・授業では、専門的な保育・教育内容を学生が理解しやすいように、プリントを工夫した。各時間の提出物(プリント等)には、コメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。</p> <p>②学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上</p> <p>授業では、アクティブ・ラーニングを意識して授業を行った。特にグループでのディスカッションやロールプレイ等を多く取り入れ、学生が主体的に学べるように工夫した。</p> <p>キャリアデザインの授業では、社会で求められるスキル(課題解決力・コミュニケーション力・主体性・自主性・社会性・協働力など)について、体験やグループワークなどを通して向上を図った。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>1 学生支援</p> <p>保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、小論文指導等を学生支援担当課と連携して行い、公務員試験(幼児教育職)合格や私立園への就職内定に貢献した。</p> <p>2 委員会活動等</p> <p>子ども学科長として、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた。</p> <p>3 研究活動・社会活動等</p> <p>滋賀県内の公立幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等の研究会で研修講師を務め、専門分野の最新の状況を知るよう努めた。</p> <p>研修会や園内研究会での学びを踏まえ、学生に幼児教育や幼小連携・幼小接続等についての情報提供や助言を行っている。</p>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

<p>授業</p>	<p>授業では、学生の実践力、コミュニケーション力の向上を目指し、グループワークの充実に努める。</p>
-----------	--

授業以外 (学生支援等)	担任制、個別支援、学科内連携により学科全体で学生を支援していく。 委員会活動等に積極的に参加し、学内活動に寄与する。
-----------------	---

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	大橋英子
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育実習Ⅰ	子ども	1
保育実習指導Ⅰ	子ども	1
保育実習Ⅱ	子ども	2
保育実習指導Ⅱ	子ども	2
乳児保育Ⅰ	子ども	1
乳児保育Ⅱ	子ども	1
幼児と言葉	子ども	1
保育内容（環境）	子ども	1
基礎力プログラムⅣ	子ども	2

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	副委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会	委員	紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部長	担当	小学校部会長	
幼稚園実習部長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。</li> <li>・ 特に実習への不安が強い学生にはできる限り学生に寄り添い面談を重ねていく。</li> <li>・ 修得単位が少ない学生・欠席の多い学生、を早期に見つけ、意欲をなくさないようにし、一人一人が充実した学生生活を送り、成長と自立ができるように教職員と協働しながら学習支援や生活支援を行っていく。</li> <li>・ 滋賀県による保育士支援や人材確保部会等の会議に参加し、滋賀県の最新の状況を知るように努め、就職等に助言していく。</li> </ul>

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	○専門的知識・技能の確実な習得を促すために、埋め込み式や重要箇所をまとめて書き入れるレジュメを作成し、聞いているだけでなく、書くことで専門的知識・技能を確実に身に付
----	--

	<p>けるようにした。また、現場経験からの具体的事例・実際に人形を用いての実践・視覚的教材など様々な方法を用いて理解しやすいような授業に取り組んだ。</p> <p>○模擬保育授業においてはルーブリック評価を取り入れている。ルーブリック評価は、自己評価と学生間の相互評価としておこない、振り返りや気づきの授業を行い、実習実践に反映させるようにした。</p> <p>○保育現場の知識や経験から具体的な事例を多く用いて、様々な子どもや親対応などを学生が自ら考えることができる授業を行った。</p> <p>○GPA 下位の学生には個別支援指導の機会をもった。また、指導案の作成や実習日誌の記録の取り方などに特に苦手意識や困難感を持つ学生に対しては、時には個別に指導を行うなどできる限り丁寧に対応した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○対面授業の際に声をできるだけかけるようにした。特に欠席が続く学生や課題が出ていない学生、就職先をどこにするか悩んでいる学生などと面談をした。</p> <p>○実習に対する不安な気持ちに寄り添い、できる限り面談をし、不安材料を取り除くようにした。</p> <p>○試験合格者において、保育者として働くことへの悩みや不安を軽減し、生き生きと期待をもって働いていくためのサポート面談を行った。</p> <p>○学生たちと教員が、親子にとっても学生や教員にとっても「安全、安心な環境の構成」を考え、事業計画に沿って「ぶんぶんひろば」を開催した。長浜北高校のボランティア部の学生を受け入れ、ぶんぶんひろばに参加してもらうことができた。</p> <p>○高大連携・高校へのガイダンスにおいては、高校生に保育者への関心や魅力、やりがいなど知ってもらうことが大事と考え演習を交えながら行った。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>学生が講義を聞きながら書き込みをすることは集中力を維持できることにつながった。</p> <p>○講義で学んだことを、保育現場を想定した体験活動と連動させた授業は、知識・技能の習得につながり、実践力向上になった。</p> <p>○模擬保育授業でのルーブリック活用は、模擬保育でどのようなことが求められているのかなど自らの保育実践を見つめることで新たな気づきを見出すことができ、今後の保育実践への効果的な改善となった。学生からは「学生相互の評価をしたことで自らの保育を改善することができた。」という声があった。</p> <p>○学生が一番不安に感じていることは実習であり、実習の中でも日誌や指導案は最も苦労していることである。授業では、何度も繰り返し、学生に伝えて理解させることを試みている。時には個別に指導を行うなどし、できる限り丁寧に対応した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○定期的な面談、呼び出し面談、個別指導など行うことで進路や学生生活全般についての悩みなどを聞き、随時対応することができた。学生理解を深める大切な場でもあった。学生からも個別指導、担任制は高評価である。</p> <p>○就職試験合格者の仕事への不安軽減のサポート面談を行った。様々な不安を抱えているのがわかり、一人一人が生き生きと働けるように、現場経験をいかしたアドバイスをした。仕事に対する不安の軽減になったのではと感じた。</p> <p>○コロナ渦においてのぶんぶんひろば開催は、危機管理の大切さ、安心・安全な環境、感染予防についてなど授業で学んだことをフルにいかすことができる実践の場となった。参加してくださる保護者からは、「いつも楽しみにしています。」という言葉をいただいた。</p>

	○長浜北高校のボランティア部から学生が参加してくれたことは、子どもと関わることの楽しさや、本学の乳幼児教育の魅力を感じてもらえる良い機会だったと思った。今後も引き続き参加してもらうようにするとともに、近隣の高校からの参加も考えていきたい。
--	---

### 5. 目標（今後どうするか）

授業	○保育現場との連携を強めた教育活動を展開していきたいと考えている。 実際の保育現場に入り込みそこから学んでいくことや授業で学んだ知識・技能を保育現場で応用するような授業形態ができるようにしていきたい。 ○実習の不安を取り除くためには、負担となっている日誌や、指導案を理解させ、書くことができるようにしていく。今後も個別指導も取り入れながら丁寧な指導をしていく。
授業以外 (学生支援等)	○進路変更等気持ちが揺らいでいる学生には早期発見し、担任制、個別指導など学科内で連携し、学科全体で学生を支援していくようにする。 ○子育て支援の場として地域の方々のニーズは高いので、今後も開催できる回数を増やせるか考えていきたい。また、高校生の参加も長浜北高校だけでなく近隣の高校に声をかけていくのもよいのではないかと ○高大接続、高校内ガイダンスにおいて、高校生に保育者の魅力や職業としての保育者に関心を持ってもらうように発信のさらなる工夫をし、担当する家庭科の先生たちとも本学に関心を持ってもらえるようにつながりを大切にしていきたい。

### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	平井 敏孝
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター長、改革戦略室

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラム I（初年次教育）	子ども	1
教育制度論	子ども	1
教育実習指導（小）	子ども	1
教育実習指導（小）	子ども	2
理科教育法	子ども	1
生活科概論	子ども	1
生活科教育法	子ども	2

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

委員会名	役職	所属委員会	備考
運営協議会	委員	SD委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	副委員長
学生委員会	委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	WG 長	教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	副委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部長		小学校部会長	担当
幼稚園実習部長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	引き続き、コロナ感染予防をしっかりと行う中で、各講義において、学生が「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、学生の資質や能力に合わせた言語活動や観察・実験、問題解決的な学習活動を工夫する。体験活動と言語活動を重視し、グループなどで対話する場面や学習をふり返る場면을継続的に行い、主体的に学ぶことの楽しさと充実感を実感させる。 学生サポートセンター長として、関係職員間での連携や情報共有を密に行うこと、学生へのサポートについては、学科の先生方との連携を図り、効果的に関わられるようにすることを重点として取り組んでいく。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	本年度も、1年を通して対面授業が実施され、観察や実験、問題解決的な学習の場を多く取り入れることができた。具体的には、感染防止に配慮しながらもグループでの活動や協
----	--

	<p>議、交流の時間を、90分の授業の中に意図的に組み入れ、存在感や授業への参加意識が持てるようにし、主体的に学ぶことの楽しさを実感させるように努めた。</p> <p>小学校教諭養成コースの学生は少人数であることから、個々人との対話を重視し、それぞれの課題や目標にあった内容を準備し学習を進めるよう工夫した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>本年度は、新たに設立された「学生サポートセンター」の長として、設立の目的を考えながら運営の基本と位置付けたサポートセンター会議を開催し、情報交換や個別の対応についての協議の充実を図った。運営は初めてということもあり、当初は、学生への周知に努めた。また、運営協議会等での報告や関係課と連携を図り、情報の共有や迅速な対応ができる組織になるよう努めた。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>コロナ渦の状況から幾分解放され、これまでと比べると話し合い活動やグループ活動に意欲的に取り組む学生の姿が多くみられるようになった。そうしたことから、授業開始当初から積極的にグループワークや話し合い活動、全体での表現活動を取り入れるようにし、それぞれの場面で、具体的な評価を示し、より高い目標を持たせるように努めてきた。</p> <p>結果としては、話し合い活動の進め方だけではなく、限られた時間内での発表の仕方や、わかりやすい表現方法等、回を重ねる中で成長を感じる姿が見られるようになった。</p> <p>学生からは、自らの成長を感じるという内容や、話し合い活動への苦手意識が薄らいだといった感想が寄せられ、大学での学びに意欲的に取り組もうとする姿を感じる事ができた。</p> <p>今後は、こうしたアクティブラーニングを主に置きながら、必要な知識を丁寧に伝え、それらを活用していける力を育てること、また、1科目だけでなく、系統的にこうした学びをつなげていくことが大切と感じたところである。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>「学生サポートセンター」の運営においては、学生の情報の共有が何よりも大切であり、その後の早い対応や指示が求められていると考えている。本年度については、合理的配慮を学生から求める事例はなかったため、具体的な対応を協議することはなかったが、支援を必要とする学生については、センター内の4名で会議を開き情報を共有するとともに、今後の対応についても話し合ってきた。</p> <p>こうした組織的な対応ができるようになったことから、その場その場の対応や、急に上席に判断を求めるといったことが少なくなり、事前に準備したり想定したりする中で、個々の学生に寄り添った対応ができるようになったと考える。</p> <p>また、試行錯誤のところもあったが、事務局等や学科との連携も密に図れ、学生への指示も早く行うことができたと考える。</p>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>観察や実験、模擬授業等を行う授業については、少人数の授業であることから、計画の段階できめ細かな指導を行い、様々な考えに触れさせるようにし、模擬授業やその後の研究協議において学生の交流が活発化するよう心がけていきたい。</p> <p>多人数の授業においては、引き続き90分の中に交流の場を設定し、様々な人との意見交流を経験させることを大切にしたい。その上で、多様な考えを受け入れ、自分の考えを高めていく学びを実感させていきたい。また、発表や表現活動に対しては、指導者側が適切な評価を伝えることで、次の目標を持たせるとともに、主体性を伸ばしていきたい。</p>
----	---

<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>学ぶことが楽しいと実感し、主体的に学ぶ学生の育成には、何よりも本人の学ぶ意欲や資格を取る、卒業をするといった強い意志が必要である。こうした気持ちは入学後においても育てていくことが重要であり、面談や普段の生活の中での交流において、職員の共通理解を図るとともに、個々への声かけや支援の充実に努めていきたい。</p> <p>このことは、「学生サポートセンター」においても重要であり、センター内で共有した事柄や情報については、本人の了解のもと関係者と共有するなどして、支援を求める学生の学ぶ意欲の向上に寄与していきたい。</p>
-------------------------	---

## 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	松本 文夫
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
体育 I	子ども	1
体育科教育法	子ども	2
健康とスポーツ	子ども	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	無	担任（2年生）	無
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会	SD委員会	
研究倫理委員会	地域連携委員会	
危機管理委員会	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	広報委員会	
認証評価準備委員会	高大接続・連携委員会	
図書委員会	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	教員採用選考委員会	
教務委員会	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

### 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	将来、子どもたちの成長に関わる職に就く者として必要な、子ども達にコミュニケーション能力や探究心等の生きる力を育む力を身につけさせる方法を身に付けさせる他、常に子ども達の発育発達を念頭に、子どもたちとの関わり方を考えることができるよう指導する。

### 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	コミュニケーション能力や協働する力の育成のため、グループワーク (実技) とグループプレゼンと、そのプロセスを評価基準に入れた。
授業以外 (学生支援等)	Classroom 内において、随時質問について受け付けた。

#### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	グループ内でのコミュニケーションや発表方法の工夫において、多くの生徒が互いにコミュニケーションをとりながら改善に取り組んでいる姿を見ることができた。
授業以外 (学生支援等)	質問等については、授業関係のもののみ出会ったが、適宜回答することができた。

#### 5. 目標（今後どうするか）

授業	授業アンケートの結果、おおむね到達目標は達成できる状態であり、講義内容についても、良い結果をえている。引き続き、学生に求められる力の育成のため、アクティブラーニング等を積極的に行っていく。
授業以外 (学生支援等)	引き続き、質問等について Classroom などを活用し学生が気軽に質問できる方法を継続する。

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	西松 秀樹
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
発達心理学	子ども	1
基礎力プログラム I（初年次教育）	子ども	1
子ども家庭支援の心理学	子ども	2
子どもの理解と援助	子ども	2
教育相談	子ども	2
カウンセリングマインド研究	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
教育情報処理	子ども	2
子どもの心理学	国文	2

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	委員長
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会	委員長	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	副委員長

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力プログラム(初年次教育)を通し、学生に必要な力を育成するとともに、学生の長所を認め、笑顔を絶えないようにすることで、キャンパスに明るい雰囲気醸成していく。全員で、力を合わせて卒業するという目標づくりに努める。</li> <li>・保育者・教育者として必要な専門的な知識や技能の習得に向けて、見通しを持たせ、具体例をもとに討論をすることで、「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫する。</li> <li>・社会に貢献できる人材の育成に向け、講義や演習を通し、職業人としての使命感、倫理観を身につけさせ、人生において主体的に学び、挑戦していこうとする契機にしておく。</li> <li>・就職支援に向け、教員採用試験や公務員試験等に見通しをもたせ、前向きに挑めるよう支援する。公認心理師の視点から配慮の必要な学生には、早期に関係職員と共有し、対応することで、不適応をおこさないようサポートに努める。</li> </ul>

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>①主体的・対話的で深い学びにつながる授業 保育や教育の事例から対応策を主体的に検討し、ディスカッションを通して様々な考え方を取り入れ、深い学びにつながる授業を目指した。また、課題の提出や疑問への回答等は Google Classroom を活用し、質問しやすい環境作りに努めた。</p> <p>②「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を高める授業 カウンセリングの技法を活用した実習、グループワークを通して実習、ディスカッション後の報告を取り入れ、保育や教育に求められるコミュニケーション能力を高めた。また、PowerPoint を活用した発表を講義に組み込み、プレゼンテーション能力の向上に努めた。</p> <p>③教員としての経験を伝えることを通しての「使命感や倫理観」を高める授業 教職経験から得た知見を具体的に伝えることで、保育や教育を担う使命感や倫理観を育成することに努めた。また、やりがいや喜びを伝えることで就職への意欲を喚起させた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①積極的な対話を通じた学生の状況把握 授業以外の場でも対話を増やし、心身の健康状態の把握に努めた。配慮の必要な学生については、サポートセンターで情報交流し、援助できるようにした。公認心理師や学校心理士の研修を積極的に受講し、適切な心理学的支援の力量を高めるよう努めた。</p> <p>②公務員試験志望者への積極的支援 教員採用試験や公務員試験を受験しようとしている学生に必要な資料を提供し、受験にむけてのモチベーションを高めようと心がけた。</p> <p>③スチューデントアワーを活用した学生の理解 七夕、お月見、クリスマスなどのイベントや体育館での球技に参加し、学生との交流を増やし、キャンパスに明るい雰囲気を醸成するよう努めた。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>学生は主体的に授業に取り組み、積極的に発表するようになった。また、表現力が向上し、自信を持って意見を発表する学生が増えた。学生全員が到達目標の達成に肯定的な評価をし、9割前後の学生が「よく理解できた」という設問に肯定的な評価をした。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>キャンパスに明るい雰囲気が醸成されている。こうした雰囲気で学生生活の満足度を高めることが、学生の不適応状態を少なくすることに結びついている。</p>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>保育士や小学校教諭として就職する割合をあげ、将来につながる資格と技能が習得できる授業を実施していく。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学生の満足度を高め、地域や高校からの評価を高めることを通して、学生募集に結びつけていきたい。</p>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	野瀬 薫
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	A L O

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
教育原理	子ども	1
理科概論	子ども	1
生徒指導及び進路指導論	子ども	1
教育方法・技術論	子ども	2
特別活動および総合的な学習の時間の指導法	子ども	2
基礎力プログラムⅢ	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
教育実習（小）	子ども	2
キャリアデザイン	子ども	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	副委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	副委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	副委員長
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	<b>【子ども学科】</b> 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	① 「知育・徳育・体育の鼎立と調和のとれた人間形成」の建学の精神に則り、「教育者（社会人）として社会に貢献できる人材になろうとする学生」の支援・育成に努める。 ② 教育及び学生支援において、学生が主体性を発揮し、思考し、前向きに一步を踏み出せる授業の創造に努める。 ③ 教職員間においては、日常的にコミュニケーションを図るよう努め、情報共有・意見交流等を意識的に行う。 ④ 本学及び教職員の行動規範、関係法令の遵守に努める。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	講義においては、配布資料により講義の要点をとらえやすくするように努めるとともに、パワーポイント等を用いた資料により、視覚的にも理解を深められるように努めた。 講義中に「問い」「ワーク」の時間を設け、ペアや四人グループで意見を交換する場を設け
----	---

	<p>るよう心がけた。</p> <p>講義のまとめの段階で、短時間ではあるが、席のとなり同士で「本時学んだこと」「本時考えたこと」を自分の言葉で表現し、交流する時間を設けるよう努めた。</p> <p>講義後の「振り返りカード」の記入を通して、個別の質問を受けやすくし、学生の質問や感想に対して、できるだけ丁寧なコメントを心がけた。</p> <p>総合的な学習の時間の指導法等においては、可能な範囲でできるだけ体験活動を取り入れるように努めた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>担任の学生とコミュニケーションをとるため、欠席しがちである学生にできるだけ出席を促す声かけをし、就職活動があまり進んでいない学生に対しても声をかけるように努めた。</p> <p>学生に対しては、他の先生方の授業に関する諸連絡以外にも、できるだけ出会う機会を設けたりメール等で連絡を取ったりして、必要な支援となるよう努めた。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>学生は熱心に講義メモをとる姿が見られ、講義後の「振り返りカード」を見ても、学生の理解は深まったと思われる。</p> <p>講義のまとめの段階で行った「学んだことを交流し合うペア活動」により、「振り返りカード」記入の際にも、自分の考えを表現できる学生が増えた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学生は、就職先を見つけるように努め、卒業に向けての諸条件を整えるように心がけたと思われる。</p>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>今後も、「問い」や「ワーク」をできるだけ多く取り入れた意見交流のできる講義となるように努める。</p> <p>今後も、「本時学んだこと・考えたこと」を自分の言葉で表現し、交流できる学生を育てるため、講義のまとめの段階で時間を設定していく。</p> <p>今後も、「振り返りカード」等により、学生の要望・思いをできるだけくみ取った学修となるように努める。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>担任制、個別支援、先生方との連携により子ども学科全体で、学生を支援していけるよう努める。</p> <p>自己点検・評価委員会については、本年度の反省を生かしより充実した活動となるよう努める。</p>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松宮孝明
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
役立つ文章表現	子ども	1
国語科教育法	子ども	1
算数科概論	子ども	1
算数科教育法	子ども	1
教職概論	子ども	1
教育課程論	子ども	1
道徳の理論と指導法	子ども	1
基礎力プログラムⅢ	子ども	2
教職実践演習	子ども	2

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員長
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部長		小学校部会長	
幼稚園実習部長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	① 本学の准教授として、第一に、保幼小の教員を目指す学生に対して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を提供し、思考力・判断力・表現力を身につけた社会に有用な人材育成に寄与する。 ② 第二に、大学の教員として、教育方法や広く教育全般についての研究を深め、論文にまとめ、発表していく。 ③ 最後に、このような活動を通して、本学の魅力を広く発信し、価値や魅力の向上に貢献する。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	①現場感覚を取り入れた授業の工夫・・・保幼小の現場の授業ビデオ等を活用したりして、可能な限り、小学校現場で38年間教鞭をとってきた経験を生かした。 ②体験重視・・・講義だけで終わらず、可能な限り操作活動等を取り入れ、体験的な学びを
----	--

	<p>実現した。</p> <p>③ICTの活用・・・Google workspace (Classroom など) を大いに活用し、学生に慣れさせるとともに、授業に有効に活用した。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生支援・・・担任の学生を中心に、設定された面談時以外でも、こまめに声をかけ、困りごと等に対応した。</p> <p>②委員会活動・学科以外の兼務職・・・教職実践演習運営委員会、教学 IR 担当では、事務局と連携しながら、取りまとめ等を積極的に行った。</p> <p>③研究活動・社会活動等・・・「スクールリーダー養成には何が必要か」についてまとめ、紀要に掲載した。草津市教育支援委員会に副委員長(学識経験者)として参画した。算数科教育で長浜市教委に協力したり、教科書会社の執筆・編集に関わった。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

<p>授業</p>	<p>①学生の興味関心、理解度の向上・・・意欲をもって授業に参画してくれたように思う。</p> <p>②学生のコミュニケーション能力の向上・・・授業の中に少人数でのディスカッションを多く取り入れ、自然に自分の考えが語れるようにできたと思う。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生との意思疎通の向上・・・就職支援等、きめ細やかにできたと思う。</p> <p>②学科内の取り組みに参画・・・教職実践演習運営委員会、教学 IR 担当等を中心に、与えられた役割は果たせたように思う。</p>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

<p>授業</p>	<p>①卒業後の現場を意識した授業になるようにさらに工夫する。</p> <p>②体験的な活動をもとに、さらに思考力・判断力・表現力を高める授業の展開を工夫する。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生とのコミュニケーションをさらにきめ細やかにする。</p> <p>②研究活動・社会貢献活動をしっかり行う。</p>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	三岳貴彦
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
社会的養護 I	子ども	1
社会福祉	子ども	1
子ども家庭福祉	子ども	1
施設実習指導	子ども	1
社会的養護 II	子ども	2
子育て支援	子ども	2
基礎力プログラムIV	子ども	2
施設実習	子ども	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	担当

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

### 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士の専門的な知識と技術を習得し、職業倫理が陶冶される保育者を養成する。</li> <li>・ 演習科目では主体的且つ能動的に学習出来るようアクティブラーニングを取り入れ授業作りを工夫する。</li> <li>・ 担当科目が未就学児だけでなく18歳未満の児童を対象とした福祉の問題を取り扱うことから、児童の取り巻く問題と福祉による支援について関心が持てるよう取り組む。</li> </ul>

### 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の文面ではイメージしづらい事項について、可能な範囲でニュース等時事問題を織り交ぜながら紹介した。</li> <li>・ 演習課題の他、講義科目でもリアクションペーパーの課題を出し、自身の考えを言語化する力を養った。</li> <li>・ 全国保育士会倫理綱領では「チームワーク」が求められており、演習科目では自身の考え</li> </ul>
----	--

	を発表するだけでなく、他者(他の受講学生)の考えを聴いて良かった点を書く課題を出し、協働する力を養った。
授業以外 (学生支援等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各委員会業務を通し、学内業務の円滑な進行に務める。</li> <li>実習事務業務を通して、各実習先との連絡を取りあい、学生が実習の準備、オリエンテーション訪問(事前指導に当たる)と円滑に進む様、務める。</li> <li>保育士等キャリアアップ研修、びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業での講師等を通して地域の人材育成に務める。</li> <li>ぶんぶんひろばでは記録を担当し、円滑な運営に務める。</li> </ul>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士養成に関する教科書で触れている事項は、今を取り巻く現代社会の問題につながっている事に気づく機会に繋げた。</li> <li>自身の考えを言語化する力を養う事で、実習の事前指導に活かせた。</li> <li>他者の考えを尊重して聞き取る課題を通して、学生に専門職としての傾聴・受容の姿勢を涵養した。</li> </ul>
授業以外 (学生支援等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設とのコミュニケーションから、学生が円滑に準備できる環境を整えた。</li> <li>保育士等キャリアアップ研修等地域での活動の他、キャンプインストラクター講習での講師を担う等、人材育成の場面に取り組んだ。</li> <li>ぶんぶんひろばの記録の管理方法が整理されていなかった為、ルール作りを行い、併せて学生のフィードバック教材に活用した。</li> </ul>

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で触れたニュース、時事問題は今後のニュースに合わせて内容を更新し、今現在の社会問題として理解が深まる様、努める。</li> <li>演習課題等の場面で学生がより意見表明しやすい様、努める。</li> </ul>
授業以外 (学生支援等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生面談等でより学生個人に応じた相談できる関係形成に取り組む。</li> <li>行事等で学生がより主体的に参加できる様、支援する。</li> </ul>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- 令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- 令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- 令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- 令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- 令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5 (2023) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	利光 奈穂美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務 (何を行っているのか)

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
幼児理解と援助	子ども	1
教育実習指導 (幼)	子ども	1・2
幼児と人間関係	子ども	2
保育内容 (健康)	子ども	2
保育内容 (人間関係)	子ども	2
自然と環境	子ども・国文	2
教育実習 (幼)	子ども	2
教育実習 II	子ども	2
基礎力プログラム III	子ども	2
教職実践演習 (幼・小)	子ども	2

#### ②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	副委員長
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	委員長

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長	担当	子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	○建学の精神に基づき、子どもを知り、子どもの内面を理解し、温かいまなざしで愛情をもち関わることのできる使命感や責任感にあふれた心豊かな保育者を育成する。 ○理論的な学修と共に、専門的な知識や技能を身につけ、実践的な能力が習得できるような指導を行う。保育者としての資質と専門性を高めるため、実践事例や保育映像を活用し、保育カンファレンスやアセスメントなどのグループワーク・ディスカッションを行う。自分の気づきや考えを言葉で表現すると共に、他者の様々な考えや見方を知り傾聴することを繰り返し、コミュニケーション能力を高め、体験的な学びを深める授業を行う。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	・「子どもを見る力」「保育を語る力」「書く力」が身につくように、事例考察や保育カンファレンス、アセスメントなどのグループワーク・ディスカッションを行った。更に、子ども
----	---

	<p>の思いや発達段階、保育者の援助や環境の構成などについて具体的に解説を行い、学びを深められるよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育授業においてはルーブリック評価を取り入れ、自己評価と相互評価を行い、主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理し、実習に反映させるようにした。</li> <li>・各時間の提出物（プリント等）は、できるだけコメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。</li> </ul>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携、高校ガイダンス等で、出前授業や大学紹介などを行った。</li> <li>・保育・教育実習運営委員会、ぶんぶんひろば運営委員会、教職実践演習運営委員会 授業料減免審査委員会、広報委員会等に委員として参加し役割を務めた。</li> <li>・米原市、彦根市の幼稚園・保育所・認定こども園等の園内研究会や保育内容研修会などで研修講師を務めた。学生に幼児教育や現場の状況についての情報提供を行った。</li> <li>・スチューデントアワーでは、様々な行事に参加し学生と交流したり、学園祭で模擬店を出店したりした。またC I 講習の実技研修（合宿）の引率を行った。</li> </ul>

#### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

<p>授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての子どもを見る目や保育者の心構え、姿勢など愛情をもったかわりができるように、繰り返し保育の基本を伝えることが大切だと改めて感じた。</li> <li>・グループでの模擬保育は、他者とのコミュニケーションを取り、意見を交わし、計画を基に保育を実践する力が身に付けられるよう工夫した。計画の段階から活発な意見交換ができ、準備から実践まで主体的で体験的な学びにつながった。</li> <li>・基礎力プログラムⅢの授業では、幼小の円滑な接続に向けての学習課題を設定し、学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を図った。学生の学びは、長浜市内私立園の先生方に公開した。</li> <li>・長浜南認定こども園と「自然と環境」の授業に向けた打合せを重ねた。学生が実際の保育を観察させていただくことができ、多くの学びを得ることができた。</li> </ul>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習への不安を抱える学生や実習中の相談に対して、個々にアドバイスや助言を行い最後まで実習を終えられるように励ました。</li> <li>・面談や相談において、個々の学生の思いや悩みを丁寧に聞き、学生支援に努めた。</li> <li>・様々な行事への参加を通して、子ども学科だけでなく、国文学科の学生とも交流することができた。</li> </ul>

#### 5. 目標（今後どうするか）

<p>授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等において、Google Classroomの活用について、学科の先生方から効果的な活用方法について伺い、学んでいきたい。</li> <li>・学生が主体的に、意欲的に学びたいような授業の工夫を重ねたい。</li> </ul>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大接続、高校ガイダンス等で、幼児教育や保育者に関心を持ち、本学への学生募集につながるような発信の工夫をしていく。</li> <li>・担任制、個別支援、学科内連携により学科全体で学生を支援していく。委員会等に積極的に参加し学内活動に寄与する。</li> </ul>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

①令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス

- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	藤本明美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティー칭ング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティー칭ング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティー칭ング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティー칭ング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育内容（言葉）	子ども	1
保育原理	子ども	1
保育実践演習	子ども	2
保育者論	子ども	2

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

委員会名	委員	委員会名	委員
運営協議会		SD委員会	委員
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員長	授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

### 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	多様な人と対話しようとする力、協働する力を身につけ、子どもと子育てにやさしい社会をつくることのできる人材の育成。 担当している科目を通して保育者としての豊かな感性を育む。また、子どもの最善の利益を第一に考えることのできる人材の育成。

### 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当教科の中で教材研究を深め、アクティブラーニングに基づくプログラム作成を行う。</li> <li>・ 授業の特性に合わせて学生の豊かな感性の育成を目指し、実践が身につく授業を行う。実践事例として、身近な自然環境から心が動く事象をとらえる眼差しや感じ取る力をつけ、子どもと感動を共有するための豊かな言葉を獲得することができるように試みる。</li> <li>・ 特に2年生秋学期の授業では、子どもに関わる総合的な専門的な知識・技能と実践力が習得できるように計画している。事例として、子育て中の保護者をゲストスピーカーに招き、</li> </ul>
----	--

	<p>日々の子育てで大変なことや嬉しいこと、地域や保育所などに期待する支援などを聞かせて頂く。学生は地域が抱える課題と保護者からのニーズを理解し、保育者として子育て支援ができるように課題感をもったテーマに向かって学びを深め、保護者が抱える悩みへのアドバイスをわかりやすくまとめたリーフレットを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人と対話しようとする力、協働する力などソーシャルスキルについては、学生自身の自己課題及びなりたい自分像を明確にしてから授業に取り組んでいる。</li> <li>・協働する楽しさと力を身につけるためにグループ研究も取り入れる。ややもすると、個人の力量によって仕事量のバランスが異なることに陥りがちだが、グループで取り組む初めに、どのようなメンバーシップでいたいのか、嫌なことや嬉しいことを出し合い、相互作用でグループ研究が成立することを十分に理解しあった。授業中の巡回はもちろんだが、毎回自分の目標と成果を書いて提出するようにした。</li> <li>・グループ研究のサポートが多岐にわたるので、1名の教員でどのように目を行き届かせるのが自分の課題であったが、グループ研究のテーマに向けたわかりやすい関連図書を複数用意し、学びが深まる環境を作った。</li> </ul>
授業以外 (学生支援等)	<p>学生の状況を理解することに努めつつ、学生の強みをフィードバックしている。</p> <p>また、学生がより良い自己決定ができるように、学生が持っていない新たな視点を投げかけ、多様な考えから次のステップに進めるように支援することを心がけている。</p> <p>自ら援助を求めてこない気になる学生に対して、タイミングを見計らい、エンパワメントできるように心がける。</p>

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングを基本とし、個々に目標をもって取り組むことで意欲的に学ぼうとする態度が顕著であった。</li> <li>・本にふれることを苦手とする学生が多かったが、関心のあるわかりやすい文献を複数用意しておくことで、自主的に図書館に借りに行ったり、グループでページをめくりながら話し合ったりする姿が見られ、非常に効果的であった。</li> <li>・卒業年度の学生は、専門性と実践力が身につく、現場でも学んだことを活かして頑張りたいという意欲を振り返りで記述しているものが多く見受けられた。</li> </ul> <p>教員から見て、アサーティブコミュニケーションを苦手とする学生が多かったが、グループワークで意識して会話をすることで、「自分の意見が少数派だったが、みなに伝えることができた」という変化がみられた。さらに、保育者が子どもの最善の利益のためにきちんと意見を述べるとともに、組織として合意形成を図る場面を取り入れたワーク（模擬職員会議）を行ったが、リーダー的な学生、あるいは多数派の声に流されることなく、対話することができたのは成果であると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て家庭に対する理解や不安解消のための知識や、保護者とのコミュニケーションの取り方など、クラス懇談会の持ち方など専門性に基づいた実践力をつけていった。子育て経験のない学生ではあるため実態を学びながら保護者役にも臨んだ。そのことで、親ってこんな思いで子育てしているのかなあ、子どものことが心配なのかなあ、と保育者とは違う目線でしっかりと向き合いながら学ぶことができた。</li> </ul>
授業以外 (学生支援等)	<p>クラスメートとの関係性や、1年生は実習に向けて、2年生は社会にでていくにあたり様々な自分の課題と向き合っている。</p> <p>対立している学生同士の両者からそれぞれ相談を受けることがあった。両者ともに納得でき</p>

	ないので話し合いたいという意向もあった。どのようにしたら相手を批判的になったり攻撃的にならずに話し合えるかを一緒に考えてから対話の時間を設けた。いつも感情的な学生がIメッセージで落ち着いて話す姿がみられた。授業の中では無視せずに普通の態度で向き合いたい、ということを目指して思いを出し合っていた。一筋縄にはいかない色々な思いや言い分を抱えることはあるが、学生にとっては一つの大きなチャレンジであり、自分と向き合う経験だった。
--	--

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	自分に自信が持てなかったり、クラスメートとの関係性で自分らしさを発揮できない学生が社会人になっていくにあたり、さらにソーシャルスキルが身につくように授業の教材研究を重ねていきたい。
授業以外 (学生支援等)	地域と連携し、学生が視野をひろくもてる機会を作りたい。

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

## 令和 5（2023）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	山田 明日美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	学生支援担当課キャリアデザイン係、学生サポートセンター

ティー칭ング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティー칭ング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティー칭ング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティー칭ング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

### 1. 責務（何を行っているのか）

#### ①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅣ	子ども	2
器楽入門	子ども	1
音楽Ⅰ（器楽）	子ども	1
音楽Ⅱ（音楽表現法）	子ども	2
音楽Ⅲ	子ども	2
音楽科教育法	子ども	2
幼児と音楽表現	子ども	1

#### ②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

#### ③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員長
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	

奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

#### ④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

#### ⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	担当
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

#### ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

## 2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	ピアノ・弾き歌いの技能の習得のため、個人のレベルに応じた指導を心がける。 また、技能の習得だけでなく、音楽の授業を通して表現力を身に付けることができるよう、授業での内容の工夫をすることで一人一人の感受性が豊かになり、自分らしい表現ができるように指導する。 学生支援においては、学生の意見を尊重し、個人に寄り添えるようにサポートする。 また、就職や進路の実現に向けてもより良いサポートができるようにする。

## 3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	ピアノの授業においては、非常勤講師の4名の先生方と協力して行い、学生の技術の向上だけでなく、表現力も身につけられるよう、全体指導や個人レッスンなどで丁寧な指導を心がけてきた。また、ピアノだけでなく、弾き歌いに重要な歌の指導も行うなど、工夫をしながら進めてきた。
----	--

	音楽表現の授業においては、毎時間の授業内容を工夫し、知識の習得だけでなく、実践を通して表現力が身につけられるよう、座学とリトミックなどを上手く組み合わせながら授業をした。グループ発表では、対象年齢に合わせた音楽遊びを計画し、先生役と園児役をどちらも経験できるようにした。
授業以外 (学生支援等)	今年度はピアノの授業以外でも、子ども学科の時間にピアノ補習を入れたり、スチューデントアワーや学生の空き時間などに依頼されてピアノ補習をしたりする時間を設けた。 その他の学生支援においては、学生にできるだけ寄り添えるよう、必要に応じて話を聞いたり、就職関係でも必要があれば相談に乗ったりした。

#### 4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	ピアノの授業においては、個人のレベルに合わせて、丁寧な指導ができるよう努めたが、一人当たりの個人レッスン時間が少ないことで自主練が多くなってしまい、学生のフォローが上手くしきれていない部分も多かった。 音楽表現の授業においては、学生が意欲的だったこともあり、楽しみながら学んでいるように感じるが多かった。
授業以外 (学生支援等)	子ども学科の時間にピアノ補習を取り入れるなど、授業以外でもピアノのレッスンが受けられるようにしたことにより、学生が授業内で分からなかったことなどを聞く機会ができ、一人一人の課題を知ることができた。

#### 5. 目標 (今後どうするか)

授業	ピアノの授業に関しては、アンケートで学生の声を聞いているため、今後改善できるように内容や授業の仕方を変えていく。 音楽表現の授業においては、今年度の授業をベースにし、更なる改善をする。 音楽科教育法の授業においては、毎時間の教材研究をより丁寧に行い、学生のためになる授業を目指す。
授業以外 (学生支援等)	学生がもっと気軽にピアノ補習や相談などに来られるよう、自分自身が学生との信頼関係を築けるようにする必要がある。

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和5(2023)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上